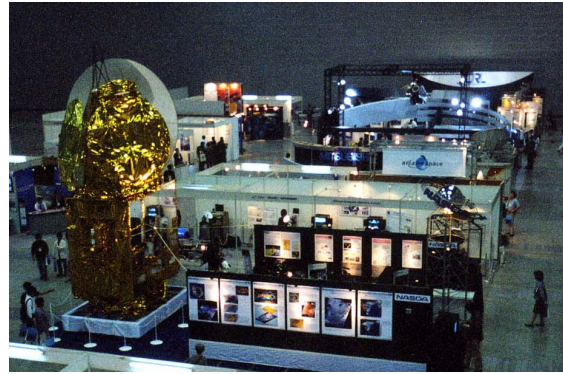


学会だより

「国際宇宙産業展 2003」開催

通信総合研究所 大野由樹子

4月17日(木)～19日(土)まで、パシフィコ横浜展示会場にて「国際宇宙産業展2003」が開催されました。これは第21回 AIAA 通信衛星システム国際会議に併設された展示会です。出展者は衛星通信に携わる研究機関・企業、ロケット製作会社や衛星通信サービス会社等、そして海外の主だった衛星製作会社などです。ただ、イラク戦争や新型肺炎の拡がりへの恐怖といった影響もあり、海外からの出展が大幅に減少したのがとても残念でしたが、最終的には通信総合研究所、三菱電機、宇宙会開発事業団、航空宇宙技術研究所、NEC 東芝スペースシステムなど国内から28の団体が、海外からはロッキードマーチン、アストリウム、シスコシステムズの3社が参加となりました。特筆すべきブースは出展者中で最大規模の出展スペースとなった通信総合研究所と三菱電機でしょう。



通信総合研究所(CRL)からは無線通信関連のものとして準天頂衛星軌道モデル、成層圏プラットフォーム、宇宙作業用モジュール型ロボットなど、また地球環境計測関連のものとして、宇宙からの降雨観測(TRMM から GPM)、航空機搭載3次元映像レーダ(SAR)、宇宙天気、時間周波数計測、そして既に実用化が各方面より期待されている「布製アンテナ」(マネキンの洋服に装着して展示)といったユニークな研究成果など、今までで最多の24テーマを出展し、取り組んでいる研究開発の多様性を誇っていました。

三菱電機では、「準天頂衛星の現状と未来」を繰り返しオンエアする大型スクリーン、様々な衛星模型の展示、華やかなコスチュームの説明員などで先進的なイメージを醸成していました。まさに宇宙産業界をリードする企業姿勢をアピールしていたと言えます。また宇宙開発事業団からは「COMETS」の熱構造モデルの実物が展示され、その大きくダイナミックな姿が注目を集めていました。土曜日には、国際会議参加者に加え一般の来場者も多数あり、会場はさらなる賑わいを見せていました。また学会参加者、出展者が各ブースを歩き来し、最先端技術に関する情報交換が活発に行われたこともこの展示会参加を意義深いものにしたことと思います。